

最高のパートナー

---

---

最高のパートナー

「女装男装」

---

---

[提供：NAN-NET](#)

# 最高のパートナー

最高のパートナー

最高の  
パ  
ー  
ト  
ナ  
ー

高校二年生の時。

当時、生徒の間で面白い噂が流れていた。それによると、真夜中、図書館管理の先生が帰宅した後、鍵のかかった図書館から、女の喘ぎ声が聞こえてくるらしい。生徒の中では面白がって、閉館する図書館に隠れて、真相を暴こうとするものが多くいたが、大抵は管理の先生に見つけられ、図書館を追い出されていた。

そのため、真相はわからずじまい。しかし…

ちよつと考えればわかることだ。その喘ぎ声を出す女の子は何故閉館時に見つからない？

…答えは簡単、管理の先生が見逃しているのだ。そして、誰もいなくなった図書館で、おそらくは女子生徒の誰かとやっている。

ここまで気づけば現場を見ないわけにはいかない。。。

図書館の中には入れなくても、その入り口でしつこくはっていれば、誰が中にいるのかはわかるはず。他の生徒達は、そこまではしないだろうが、先生が関わっているとわかればここまでする価値はある。

…僕はその日、図書館入り口で静かに夜がふけるのを待った…  
やがて…

「…あ…んっ…！」

「ん…あ…ううん…！」

「あっ、あっ、あっ、あっ！」

聞こえてきた。女の喘ぎ声だ。

「…せんっ、せっ…だっだめっ…あっ、あっ…！！」

…おそらくイッたと思われる声が聞こえてから30分程たった後、  
カチャ

キイイイ

ドアが開いた。いよいよだ。

コツ、コツ、

まず出てきたのは、やはり管理の先生。図書館の管理を任されているのいいことに、なんてヤツだ。

コツ、コツ、

次に出てきたのは…

…？見慣れない女子生徒だった。小柄でかなり華奢だ。髪はショートで、スポーツイナ感じ。真正面からは見えなかったが、かなり可愛い。

…あんな子いたかな、イツコ下だな、きつと。

…高1で先生とカンケイを持つなんて、相当のヤリマンだ。

二人はしばらく、図書館前で話あったあと、その場で別れたようだった。さすがに二人同時に学校をでるのはまずいからだろう。

…二人は別れ、先生の方は階段を下へ。女はトイレへ向かった。

今見たことをネタにすれば、絶対このことやれる！

そう思った僕は、すぐその女生徒を追いかけた。

そして後ろから羽交い絞めにし、口を押さえながら言った。

「今の全部見てたぞ。言いふらされたくなかったら、おとなしくするんだ。オレもひどいことはしない」

あまり強い抵抗はなく、「ひどいことをしない」と言ったせいか、女性とはおとなしくなった。近づいたとき、ものすごくいい石鹸の香りがこの娘のまわりを漂っていた。

顔をじっくりみてみる。薄暗い校舎のなか、いつもより視界は悪いが、それでもこの子の顔ははっきり見えた。目がぱっちりとしていて、すっきりとした顔立ち。やはり誰かはわからなかった。ちょっと化粧が濃い気もしたが、

かなり可愛い。どこかで見たことがある気もしたが、そんなことはどうでもよかった。

…そつと、顔を近づける…彼女は抵抗しなかった。

…優しく、唇が触れ合った。そして…舌が彼女の中へ…

彼女は少しためらいながらも、ゆっくり舌を受け入れ、オレの肩に両腕をまわした…

たまらず、オレは彼女の制服のなかへ、手を入れた…ゆっくり背中から、お尻…

そして、股間へ手を伸ばし…

…！！？

そこでオレは思い出した。この子の顔、となりのクラスの菅原圭太に…

「お前…けいた…？」



「あはっ…ばれちゃったあ…??」

かわいい子ぶった、けいたの声だ。

股間の異物のおかげで全てがわかった。

オレは、オトコとキスしてた…!!

けいた「えっつ、続きしないの…??」

そういいながら、けいたはオレの右手をそのまっただいらな胸へ…左手を真っ

白な太ももへと導いた…

胸こそないものの、その肌は女性そのもの…太ももにいたってはオレの一番好みの色、つや、ライン…

そして、この愛らしい顔…

「…けいたっ…!!!」

オレはけいたを廊下に押し倒した。。

「ああ〜ん、ダメだよお、こんなトコ…でっ、あっ」

オレはけいたの股間をまさぐりながら、制服を少しづつずらしていった。あらわになつた乳首を丹念に舐める…

「…んっ、あ…ん…」

まるで女性のように敏感な圭太の喘ぎ声は、女の声にしか聞こえなかった。

「けいたっ…！けいたっ…！」

「んんっ…あっ、ああっ…」

スカートをまくりあげ、パンティをずらし、アナルに手をあてがった…

「あっ、ダメだよ、これ…つかって…」

けいたにローションを渡され、準備は整った。

「けいたっ…！いれてほしいのか…？」

「…うんっ…おちんちん、ほしい…」





「はあ、はあ、けいた、女装が趣味なのか…？」

「…はあ、うん…オトコの人に抱かれるのが好きなんだ…」

けいたと見つめあい、もう一度あつくキスをかわした。

今でも、カンケイは続いている。あれからけいたは胸をいれ、よりオレをとりこにしている



---

## 最高のパートナー

二〇〇八年三月三十一日 投稿

掲載元 官能小説セレクション

(URL: <http://www.kannou.cc/>)

提供 NAN・NET

(URL: <http://www.nantv.com/index1.htm>)

---

投稿された文章の著作権は、全てNAN・NETに帰属します。当サイト内の文章、音声等の情報の無断転載、無断引用は禁止です。情報の転載、引用、掲載、取材等をご希望の場合は、必ずご一報ください。上記の要望に対し当社が問題が無いと判断した場合、他メディアにおいて、投稿された情報が掲載等される場合があります。

## 最高のパートナー